

今回は、下野市国分寺に所在する甲塚古墳を探訪します。

甲塚古墳は下野国分僧寺跡しもつけこくぶんそうじあとの南西部に位置する、今から約1,450年前の古墳時代の終わり頃に造られた帆立貝式前方後円墳ほたてがいしきです。

下野国分寺跡の史跡整備に伴い、隣接する古墳の時期等を確認するため平成16年度に発掘調査を行いました。調査前の状況は、古墳の墳丘が明治16年と26年の2回にわたる発掘によって幾つかに分断されており、石室のあった場所も大きく掘り窪められていました。埴輪は調査前からあることは分かっていましたが、どういう配置なのかが不明でした。

発掘調査の結果、古墳の推定墳長は約85mで、古墳の1段目に平坦面をもつ古墳時代後期の下野市周辺に築造された古墳の特徴をもつことが判明しました。

埴輪は、墳丘第2段目の裾から周溝までの幅約12mの平坦面（基壇面きだんめん）のほぼ中央付近に一列に配置されていました。古墳の西側で、前方部と後円部の括れ部付近から人物埴輪等の形象埴輪が出土しました。馬形埴輪は4体確認され、墳丘側に馬子と考えられる人物埴輪が配置されていました。馬形埴輪の前方には女性の人物埴輪が6体、その前方に基部が楕円形でほかのものに比べて大型の埴輪が2体、その前方に10体程度の人物埴輪が配置されていました（半数以上が男性の埴輪）。さらにその前方に円筒が朝顔形埴輪が置かれていました。

平成18年度から国や県の補助事業により出土した埴輪の復元業務を行っています。昨年度は、4頭出土した馬形埴輪のうち2体の復元を行いました。復元した馬は全長約1m、高さが約1.1mあります。馬鐸や鈴などを装備した飾り馬で、色も4色塗られており写実的な表現がされています。

馬形埴輪2体は、下野薬師寺歴史館で10月頃まで展示する予定です。



問い合わせ先
下野市教育委員会
文化課
☎52-1120

次回は「星宮神社古墳」を探訪します。